

# 舵輪

## 新米女子の誕生

5月30日及び6月20日の総帆展帆をもつて、新たに13名の展帆ボランティアが誕生しましたので紹介します。(敬称略)

- 押井 清治 (大沢野町)
- 稲生 博英 (大沢野町)
- 渡辺 幸生 (高岡市)
- 森田 尚生 (砺波市)
- 細江 信一 (高岡市)
- 笠原 修司 (富山市)
- 由田 信之 (高岡市)
- 向 宏美 (新湊市)
- 堀 宗治 (婦中町)
- 石崎 和子 (魚津市)
- 石崎 さおり (魚津市)
- 岩崎 さおり (滑川市)
- ガース・ヌーン (新湊市)
- 島 佳子 (上市町)

新鮮な息吹が各マストに入り込みました。国際色豊かな雰囲気となり、先輩方、どうか温かい目でもよろしくお願いします。

## SPRING THE MAN BRACE

Ship called "she"

「彼女」と呼ばれる船

海事関係の英語の文献では、文脈に係なく、いきなり「her」(彼女)という言葉が出てくるのがよくあります。たとえば

Ease her 速力をゆるめよ！  
Keep her away ちぎって行け！  
Stop her 停止！

なんて具合です。いうまでもなく、船を女性に見立てての話です。英語の他、たしかフランス語やドイツ語でも、同様だったと思います。

合衆国海軍元帥チエスター・ニミッツが、ある海軍後援会の席上で次のように言ったことがあるそうです。

「紅、白粉にたくさんカネをかけて、いつも飾り立てておかなくてはならぬ点で、船と婦人とは共通している」

うーん、海王丸の船体やマスト等の塗装には確かに大量の塗料が必要ですね。

もう一つ、「海軍の慣習、伝統と言いつつ」という本の中にある説明では

- 船が「彼女」と呼ばれる理由として次のものがあげられる。
- いつもその周囲には、てんやわんやの大騒ぎが演じられる。
- その周囲に一人の男衆がつきまとっているのが常である。
- waist (ウエスト 腰 中部甲板)と Stay (ステイ 頼りにする男 支柱索)とを持つている。
- 見栄えをよくするために多量のペンキ(紅、白粉)の投入が必要である。
- 諸君を破局に導くのは、その入手費ではなく、維持費である。
- 満身飾り立てられる。
- 正しく扱うには、当を得た男子が必要である。
- 上半身はあらわに出し下半身は隠している。そして入港(帰宅)すると、いつも浮標(寢床 boys)との洒落もある)に突進する。

これは小生が考えたものではありません。お間違いのないように!!!

あくまで、英語の文献にあるもので、これをお読みになるボランティアの女性陣には当てはまらないものですよ。

英米の海軍さんのお付き合いするようなご婦人方は、こんな方ばかりだったんでしょね。

日本では、船を女性と見立てることはあまり聞きませんが、女性を船にたとえる話によくあるようです。最近では女性の船員も増えてきましたが、ずっと男だけの世界でしたし、毎日のように自分たちの手で手入れをしていることから、もととは、純粹にあこがれに似た思いから船を女性に見立てたというのが小生の説です。(これで少しはご婦人方の追求を逃れられるかな?)

とにかく、海王丸のその優雅な姿を見れば、男性であるという考えはどこにも浮かばないでしょうね。「海の男爵」なんてキャッチフレーズではやっぱり似合いませんね。男爵はやっぱり「芋」に限る。

I M O

## カール・ラングの申す

梅雨の候 凹甲板で日光浴をしようと思つたら外は雨。(そうだが、今は梅雨だつた。)この季節は夏の白い正服、特にズボンの裾がすぐに汚れ、若い時分、5cm程早まって裾上げしたところ非常に滑稽な姿になった思い出がある。そこで、今回は「泥はね」をテーマに、ほんの少し調べてみた。

ある雨の日、街で約1時間程女性の足下を感じかねないように見ていたところ、次のことがわかった。

- 泥はねして汚れるのは、その人の決まった場所である。
- 右足が左足を、またその逆を汚している。
- ほとんどの人が膝が曲がったまま歩いている。
- 一人で見て楽しんだだけでは変に思われるので、次の雨の日、海王丸と事務所とを歩き来る際に、泥水をはね上げないよう何度か練習をし、ついに次の極意を身につけた。
- へそを縦に伸ばす感じで姿勢をよくする。
- かかとから地面につき、つま先を真つ直ぐ後ろに向け地面を蹴る。
- 一般に、水中ウォーキングなどは歩き方をよくするにはいいらしい。また、左右で股関節の角度が違うのも原因となるらしく、普段何気なくやりやすい方に足を組んだりシヨルダーバッグを掛けたらしているのを、反対向きにしてみるのもいいといわれている。
- どうか御参考までに。

## 海の日

7月20日の祝日「海の日」は、海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う日である。

1887(明治10)年7月20日、明治天皇が東北、北海道視察後、明治丸で横浜に帰着され、この日を記念して、1941(昭和16)年から「海の記念日」となった。それまでは、明治38年、日本海軍が

ロシアのバルチック艦隊を破った日、5月27日が「海の記念日」であった。昭和16年(1941)以来の海の記念日を「海の日」に制定しようとする運動は過去3回行われてきたといわれている。まず、昭和34年の運動では、「体育の日」、「敬老の日」及び「建国記念の日」のみの制定にとどまり、昭和46年の運動では、「海の日」が定められ、平成3年の運動において、平成8年から「海の日」を迎えることとなった。

# 舵輪

## お知らせ

紺青賞表彰式について  
7月20日(祝)11時30分からシル・ステージにおいて行います。  
今年度の受賞者は次の方々です。  
(敬称略)

- 岡崎 真理 (富山市)
  - 金森 進 (新湊市)
  - 水野 洋子 (富山市)
  - 高田 正二 (大門町)
  - 水口 勝務 (七尾市)
  - 尾崎 孝 (鶴来町)
  - 田口 松男 (富山市)
  - 佐藤 伸夫 (富山市)
- 以上 8名

海王丸フェスティバルについて  
7月20日(祝)、海王丸パークにて開催されます。主なイベントは次のとおりです。

オープニングセレモニー  
(篠塚船長による開催宣言等)

- 船上
- 総帆展帆
- 乗船記念プレゼント
- ロープワーク(親子先着30名)
- イルミネーション(日没後21時)
- 汽笛吹鳴(正午)
- 海上
- 巡視艇1日船長、1日保安官任命
- 巡視艇体験航海
- ヘリコプター海上展示訓練
- ヨット体験帆走
- 各種ボート体験乗船
- 消防艇船内公開
- 帆船海王丸1周クルーズ
- 帆船海王丸、海上見学航走
- 海上打ち上げ花火
- カッター模範漕法
- 陸上
- 展帆ボランティア表彰
- フリーマーケット
- 吹奏楽演奏
- TVキャラクターショー
- アマチュアバンド演奏
- 「海の日」xクイズ
- 大道芸

夜間公開について  
7月20日(祝)から8月31日(火)までの間、公開時間を18時まで延長しますが、8月15日(日)までの間は最上甲板に限り、21時まで公開します。また、同期間中は連日イルミネーションを行いますので、皆様お誘いの上、御来船下さい。

写真コンクールについて

あなたの撮った作品が、2000年海王丸カレンダーになるかも知れません。左記の要領にて奮って御応募下さい。

- 作品 海王丸パーク及び帆船海王丸を撮影した写真
- 寸法 四切り以上のカラープリント(横位置を原則)
- 締切 平成11年8月31日(火)当日消印有効
- 宛先 (財)帆船海王丸記念財団 または 富山県カメラ商組合加盟店
- 審査 主催者側
- 日時 平成11年9月14日
- 場所 日本海交流センター
- 結果 平成11年9月下旬
- 応募上の注意 北日本新聞紙上で発表
- 賞は1人1賞とします。
- 応募資格は問いませんが、未発表のものに限りです。
- 入賞作品の版權は主催者側に属します。
- 入賞作品は、ポジ又はネガを提出して頂きます。

キグレニューサーカスについて  
スリル!興奮!感動!日本最大のサーカスが富山にやってきました。

- 日程 自 平成11年7月4日
- 至 同年 8月22日
- 休演日 毎週金曜日及び7月29日
- 場所 海王丸パーク特設会場

その他 前売りチケット絶賛発売中  
問い合わせ 北日本新聞社事業部

または キグレサーカス富山公演事務局

- 日時 平成11年7月10日(土)13時30分~15時
- 場所 日本海交流センター(海王丸パーク内)
- 対象 親子40名(大人のみ可)
- 費用 無料
- 新刊斡旋 『90日間世界一周』
- 客船「につぼん丸」航海記 土井全二郎 著(朝日新聞元編集員・海事ジャーナリスト)

海から眺める地球紀行、本物の「旅」を伝えます。

## 展覧データ

- | 月日       | 気象          | 参加者 | 状態                  | 行事等                  |
|----------|-------------|-----|---------------------|----------------------|
| 5月30日(日) | 北北東、3~9m、晴れ | 77名 | スターボードタツクスクエアヤーズ、総帆 | 海洋講座「七つの海からの報告」      |
| 6月20日(日) | 北東、3m、本曇一時雨 | 70名 | スターボードタツクスクエアヤーズ、総帆 | 海洋講座「ナホトカ号油流出事故とその後」 |

来る7月17日(土)13時、伏木港伏木万葉埠頭に運輸省航海訓練所練習帆船日本丸が入港します。同船は、訓練航海の途次、同港開港100周年記念行事に参加します。

- 7月18日(日) 総帆展帆
- 同月20日(祝) 一般公開
- 同月17日(土)~20日(祝) イルミネーション

同船には、当財団で活躍された次の方々が乗船されています。

- 奥津 操舵手
- 池田 甲板員
- 松原 甲板員
- 大西 甲板員

## 係名

次の総帆展帆は7月20日(祝)です。当日は、駐車場やパーク付近の道路が混雑する恐れがあります。展帆ボランティア用にパーク駐車場の確保を試みますが、サーカス等イベントが重なり、利用者間でのトラブルが避けられないという判断から、難しくなりました。御多忙の中、いつもより早めに出発して頂くことになるとは思いますが、皆様にお集まりいただかないことには展帆作業がなりたちませんのでよろしくお願ひします。また、同日は、他のイベントとの都合上、更衣室として男性は第1・2研修室、女性は海王丸訓練生居室を使っていたいただきます。更には、海洋講座への一般参加者を促進するため、今後、海洋講座開催日には男性は第2研修室で、2人で1つのロッカーを使っていたいくことになると思ひますので御了承下さい。

## あとがき

前回の展帆では、(財)帆船日本丸記念財団から村田次一航士(指導係長)が参加され、情報交換等行うことができた。展帆作業は、人数が多すぎても少なすぎてもやりづらいたくありませんが、ボランティア各位の目的が純粋に「総帆展帆」であれば、うまくやっています。冷たいビールを浴びるように飲まれることなく、お体には呉々も御自愛され、次回の展帆日に会えるのを楽しみにしています。